

学校だより 3月号  
令和7年3月3日(月)

「誇・光・力」  
錦江中!



## 錦江町の価値を生かし、そして繋ぐには

校長 平國 弘明

2月26日(水)に錦江町役場主催、(株)エーゼログループが企画運営された「錦江町地域ブランディング講演会」が神川の地域活性化センターで行われた。ブランディングとは、「会社や地域などの価値を高め、顧客や社会の人々に認知してもらうこと」である。講師は、熊本県南小国町から来られた穴井俊輔さん。穴井さんは、家業の穴井製材工場3代目代表であり、2016年(株)Foreque(フォレック)を妻の里奈さんとともに創業、2017年にはライフスタイルブランド FIL を立ち上げ、里山の豊かさを問い続け、人と自然を繋ぐ活動を推進されており、地域産業を横断したまちづくり目指して多角的に精力的に活動されている方である。



穴井俊輔氏 RKB オンライン

穴井さんの故郷、小国地方には、有名なブランド杉である「小国杉」がある。この小国杉は、油分が多く、独特な赤みのある艶がしだいに出来る。加えて、木目が詰まり、強度が高く、丈夫だという特徴がある。そのため、優れた建築材としての評価が高く、九州国立博物館、阿蘇くまもと空港、東京おもちゃ博物館などに利用されている。ただ、木材は一世代前には、どんどん飛ぶように売れたそうだが、「大量生産、大量消費」の時代はすでに終わりを告げ、林業は多くの地域で危機的な状況にある。

その様な中、穴井さんは、お父さんが病に倒れたのをきっかけに東京での会社勤めを辞め、全く継ぐ気のなかった穴井製材工業の三代目となった。そこで、改めて林業の実情を目の当たりにし、このままでは故郷の山がダメになってしまう、という危機感を覚え一念発起された。故郷の山を未来に繋ぐために、この小国杉の新たな魅力や価値を見いだせればいいのかと考えた。まずは、家具に取り組む。大手家具メーカーに杉で家具を作りたいと相談されたそうだが、杉は家具には不向きと言われたそうで、これで心にメラメラと燃えるものが芽生えたそう。できた製品とコンセプトを海外に発信。次第に話題となり、雑誌の取材を受ける。これにより、注文が舞い込むようになったそう。次に杉の葉に注目。杉の葉には、グレープフルーツのような柑橘系と同じような成分が入っていて、そこから抽出されたオイルからはさわやかな香りがやさしく広がる。さらに、木材を乾燥させるために廃材を燃やすボイラー、この灰にも可能性を見出す。小国杉の灰釉(かいゆう)を焼き物の釉薬(ゆうやく)に使ってみると、これが淡い、青と緑を混ぜたような色になった。この色を阿蘇にちなみ「カルデラブルー」と名付けた。他にも、右写真の南小国の素材を多用し伝統工法を用いた喫茶「竹の熊」を開き、小国杉を用いた内装、建築、器、小物作りなども手がけられている。それから、新嘗祭を地域行事として立ち上げ、恵みに感謝するとともに、伝統の「吉原神楽」も奉納し、この地に根づいた信仰や精神を伝えていく場をつくったり、阿蘇の有名な野焼きに積極的に関わり映像を発信したりするなど、自然と人々の生活とを繋ぐ活動もされている。それらの根底には、南小国町の自然の恵みや文化を通じて、人々が「本当の豊かさとは何か?」という問いの答えに近づいてもらえたらという思いがあるとのことだった。



喫茶 竹の熊HPより

穴井さんらのつくり出すものはすべてふるさと小国、阿蘇と繋がり、林業や地域、多くの人とも繋がっている。これらの取組は、素晴らしいふるさと、錦江町に生まれ育った君たちや地域の方々にも参考になるのではないかと思います。ぜひ、小・中学生や若い世代のこれからの期待したい。

参考 #CASAHP FILHP 喫茶竹の熊HP IMAGHP Discover JapanHP 阿蘇小国杉のくらしHP

### ○行く「1月」逃げる「2月」そして・・・

気が付けば3月。早いもので、新年を迎えてから2か月が経ちました。3月の異名は弥生（やよい）です。その由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月（きくさいやおひづき）」が詰まって「やよひ」となったと言われています。草木だけではなく、「啓蟄（けいちつ）」と言い、冬ごもりしていた虫が、春の暖かさを感じて外に出てくる頃でもあります。「啓」には「ひらく」のほか「開放する、夜が明ける」などの意味もあります。今春、1、2年生は新しい学級に、3年生は自ら選択した新しい世界に身を置くことになります。この3月を仕上げの月にして、4月からの新しい場所で、新しい自己を啓（ひらく）準備をしてほしいです。



### ○いじめについて考える

2月18日(火)、生徒集会で12月に開催され、「県いじめ問題子どもサミット」の報告といじめについて考える時間を、生徒会が作りしました。

県下の小・中・高等学校のいじめに対する取組を発表したのち、錦江中学校ではいじめをなくすためにはどのようなことを考えて取組めばいいのかを、グループごとに話し合いました。

他学年との話し合いは、難しかったと思いますが、その中で「相手の気持を考える」という言葉がありました。その発言が、行動が、相手にとってどのような影響を与えるのか。できることなら笑顔になれる、前向きになれる言葉や行動がとれる人になって欲しいと願います。

生徒会の皆さん、貴重な時間をありがとうございました。



### ○「どうせ」を蹴っ飛ばそう

人は不満を感じながらも、妥協しているという場合によく「どうせ」という言葉を発します。「どうせ僕は勉強が苦手だから」「どうせ私は運動神経が悪いから」。この「どうせ」は自分を限定してしまう言葉なのです。自分の能力を見限り、行動範囲を狭め、将来の選択肢さえも次々と消し去ってしまう恐ろしい言葉なのです。生徒の皆さんは、これまでいろいろなものを見聞きし、身に付け、判断できるようになりました。しかし、この世に生まれてまだ13年、14年、15年しか経っていないのです。たった10数年の人生ですべてに見切りをつけられるほど、経験が豊かでしょうか。「安定」や「満足」はやがて「停滞」を生む危険性をはらんでいます。本当はみんなちよっとならずとも「変わりたい」と思っているのです。「どうせ」は自分自身を安定した状態に落ち着かせますが、実はそれは停滞しているだけで、自分を成長させることはありません。

「どうせ」を自分に言い聞かせるのではなく、ぐっと飲み込んで、もう一回チャレンジしてみませんか。いっぺんに変わる必要はありません。少しずつ大丈夫です。「もう1個だけ単語を覚えよう」、「もう1分だけ集中してみよう」、「もう1回挑戦してみよう」、「もう1回全力で走ってみよう…。」  
「どうせ」をやめることは、自分を変える最初のスイッチです。

今年度も残り1か月。3月までに「どうせ」をやめて、新たな4月を迎えましょう。応援しています。